

2015年のアンボン情勢

—ブル島ボタッ金山問題を中心に—

河野 佳春*

Memorandum for Ambon's Situation in 2015. —Around the mount Botak problem—

Yoshiharu Kawano *

Abstract

November 2015 currently in Ambon, Mt. Botak problem is the most important. This situation has been from 2011. By Gold Rush, a large number of people has come from Indonesia around. Some people, has expected economic effect. But gradually environmental destruction by mining was revealed. So consequently Conflict occurred between miners and local people. Finally at May 2015 President Joko Widodo ordered to close mining area.



地図1 マルク諸島中部南部



地図2 ブル島

1. はじめに

1. 1 本稿の対象地域

本稿は2015年11月現在のインドネシア共和国アンボン地域情勢報告である。筆者は従来、マルク諸島中部のアンボン島、およびそれに隣接するルアシ諸島、さらにこれら小島群の北に位置する大島セラムの西南岸地域を指してアンボン地域としてきたが、今回はこの地域の西約100kmに位置するブル島を含める。(地図1. 2. 参照)

マルク諸島は、北部が丁子の、南部肉荳蔻の原産地で、古くから交易が盛んであったが、アンボンなど中部は香料を産せず、周辺的な地域であった。しかし16世紀ごろ丁子栽培が始まり、その後オランダによる交易拠点として同諸島の政治的経済的中心となった。オランダ支配時代を通じて次第にキリスト教徒が増加し、19世紀末のアチェ戦争で多数のキリスト教徒が植民地軍兵士となり、ためにキリスト教多数地域とみなされている。また、インドネシア共和国独立に際しては、元植民地軍兵士らが親オランダの南マルク共和国建国運動を展開したため、彼らがキリスト教徒の中でも少数派に過ぎなかったにも拘らず、親オランダ地域との誤解を受けている。

しかし実際には「アンボン人」のキリスト教徒とムスリムの人口比は拮抗している。なお土着信仰はアニミズム的なもので、現在もそれを保持する人々は、少数ながら主にセラム島内陸に居住し、アリフルあるいはヌアウル等と呼称される。また、スラウェシ南部および東南部などとの交流も盛んで、マカッサル人ブトン人は早くから往来あるいは移民した。現在はジャワからの出稼ぎや移民も多く、人口に占めるムスリムの比率は高まっている。

1. 2 ブル島と金ブーム

今回特にブル島を含めるのは、同島ボタッ金山違法採掘問題が重大な局面を迎えているためである。同島はマルク諸島中枢のアンボンに近接しながら、ながらく辺境であり続けてきた。スハルト政権時代には政治犯流刑地として利用された。^[1]

今回の金ブームは2011年にはじまり、選鉱に使用するシアン化物や水銀による環境破壊などが社会問題化し、採掘者同士や採掘者と地元民など紛争も引き起こしてきた。当初中央政府地方政府の対応は曖昧で、2012年7月最初の禁止命令が出されたが、その後採掘を容認する傾向も見られ、同年12月以降繰り返し閉鎖命令が出される状況が続いた。しかし2015年5月にジョコ・ウィドド大統領がボタッ金山の全面閉鎖を命令、その後も事態は混沌としていたが11月13日現地部隊指揮官が5日以内の閉鎖退去命令を出し、27日時点ではルフット・ビンサル法律・政治・安全問題調整相が閉鎖完了と発言した。^[2]

今後の展開は予断を許さないが、2015年11月末時点ではこの問題は解決に向かっている。

1. 3 その他の問題

2015年現在同地域における重大問題として、ボタッ金山問題以外に東南マルク県アル島ベンジナ漁業会社によるビルマ人タイ人カンボジア人漁業奴隷問題があるが、本稿では取り上げない。マルク州全体にかかわる国際問題であるが、中心となったベンジナはアンボン地域から約1000km東南に離れている上、現時点で筆者として情報の整理ができていないためである。^[3]

また2015年に特筆すべき問題としては、9月下旬から10月下旬のセラム島などでの森林(果樹園含む)火災である。管見の限りこのような大規模森林火災はアンボン地域では例が無い。スマトラやカリマンタンなどと同様の火災原因＝大規模開発の波及を示すものか、引き続き注視したいが、現時点では詳細は差し控える。^[4]

その他2014年までに引き続き、村落内村落間の小競り合いは間歇的に発生している。同一宗教間であることが、かつての大紛争に比べて特徴的である。この問題については昨年度本紀要拙論で論じたが、現在のところその後の特筆すべき変化は見られないように思う。^[5]

2. ボタッ金山問題

2. 1 2012年

マルク州ブル県ワエアボ郡ダヴァ村ワムサイト集落

ボタッ山地区での金採掘は2011年に始まったらしいが、管見の限り新聞などに取り上げられたのは2012年6月5日以降である。以下時系列に従い新聞記事から状況を紹介する。

(1) 6月5日土砂崩れによりジャワからの出稼ぎ労働者2名が死亡。^[6]

これが初出記事。原因は大雨とされ資本・技術ともに乏しい出稼ぎ労働による採掘が想像される。

(2) 7月11日金鉱地帯で紛争、5名死亡。^[7]

金採掘に関する紛争記事の初出。

(3) 7月16日採掘禁止命令^[8]

最初の禁止命令。

(4) 8月29日警官による採掘者への賄賂要求事件^[9]

金を押収して金を要求。このケースでは賄賂だけ取って金は返さなかった。

(5) 9月10日金採掘者団体が迅速な採掘許可要求を表明^[10]

大企業でない個人採掘者団体による要求。

(6) 9月13日地元紙アンボンエクスプレスが県政府に対応要求記事。人権問題治安問題環境問題地域内対立などが深刻。^[11]

社会問題として取り上げられた最初。

(7) 10月17日ブル県政府採掘者から月10万ルピア徴収方針^[12]

ブル県政府が県外出身者の県内滞在に10万ルピア(およそ千円)月徴収開始。事実上の採掘容認。

(8) 11月8日採掘者団体代表再度迅速な採掘許可を要求^[13]

(9) 11月18日殺人事件発生、採掘者6名が4名の犯人に襲われ2名死亡。^[14]

(10) 11月29日パティムラ軍管区司令官ウィラッモコ少将、行政が決定した場合即座に、ブル島ボタッ金山地域を封鎖出来ると発言。^[15]

後の報道から見て実際に軍が出動している。軍による金採掘地域警備の始まり。

(11) 12月1日金採掘に地域社会が抗議。環境破壊懸念。^[16]

地元社会の抗議行動の始まり。

(12) 12月3,4日インドネシア・マルク州ブル県ボタッ金山採掘地域で紛争、地元住民男性が警官発砲の銃弾を胸に受けてアンボンの病院へ搬送。危険な状態。^[17]

本格的な地域紛争の開始。

(13) 12月5日国軍マルク州ブル県ボタッ金山紛争で治安部隊増強。^[18]

(14) 12月5日マルク州がブル県ボタッ金山閉鎖。紛争の他、環境破壊による健康被害防止も理由に。^[19]

ブル県の採掘容認からマルク州が禁止へ方針を再転

換。

(15) 12月8日アンボン市内ハティープ・クチール村にブル島ボタッ金山から多数金採掘者移動、地元不安。一部採掘者がボタッ金山での採掘を諦め移動。^[20]

2012年は地域外からの採掘者が次第に増加し、環境問題が顕在化しはじめていた。当初地元社会でも、ブル県政府など一部では金による経済発展を期待する動きもあったようだが、環境破壊を懸念した地元住民による抵抗が次第に強まり、採掘者との紛争が顕在化するに及んで、州政府が禁止に乗り出した。一方警察内部では採掘者から賄賂を取る腐敗も存在した。

2. 2 2013年

(1) 1月14日パティムラ軍管区司令官発表。ブル島ボタッ金山から部隊撤退の準備完了。閉鎖解除については行政の判断。^[21]

前年12月7日の閉鎖から1ヶ月あまりでの軍撤退は、州政府方針の曖昧さが伺える。

(2) 1月18日採掘者数十名逮捕。当局によると彼らは何度も逮捕され、再犯しないと誓約して釈放されている。軍管区司令官は兵士の関与を否定。^[22]

軍は否定しているが、警察同様軍にも採掘者に寄生する腐敗行為があることが疑われる。

(3) 2月22日ワエアポ・ペトゥアナン・カイエル慣習法連合が、2週間前から数千人に違法操業を許可。州・県政府と地元とが対立。^[23]

地域社会のどの程度が関わっているかは不明だが、村落支配層の一部に、金採掘から利益を得ようとする動きがあったことがわかる。

(4) 2月25日マルク州副知事ブル県ボタッ金山の永久閉鎖を断言。県当局からの書簡に基づき。環境と治安への不安にも言及。^[24]

(5) 2月26日アンボンエクスプレス記事、地域社会が徴収している採掘権料Rp55万/日・人×1万人；累計Rp2,5億。軍・警察に食費名目でRp10万/日・人×160人。^[25]

前日の州副知事発言にも拘わらず、実態として地域支配層と軍・警察が結託して違法採掘を続けさせている様子がわかる。

(6) 3月21日アンボンエクスプレス記事、19日NGO指導者発言：マルク州ブル県ボタッ金山問題、行政ははっきりと説明すべき。一般住民は金採掘の害を理解しているが、一部に目先の利益に惑わされた人々がいる。^[26]

(7) 3月22日マルク州庁でブル島ボタッ金山違法操業再開について、ブル県知事の責任を追及する学

生らが、州知事に面会求め無許可侵入、警備員らと小競り合い。^[27]

当局の曖昧な態度や軍・警察の腐敗に対し、NGOや学生からの批判が出始めてくる。

(8) 4月20日アンボンエキスプレス記事、県退役軍人警官協議会長が軍と警察に苦言。採掘者や地域社会となれ合わず厳正に任務を！(まっとうな採掘許可を、無理なら禁止。との趣旨)^[28]

軍人警官OBの目にも余る状況だったのかも知れない。

(9) 4月25日アンボンエキスプレス記事、採掘地域警備の下士官が採掘者から頻りに強奪。紛争惹起の危惧広まる。軍は既に当該下士官を県都ナムレアに召還。^[29]

(10) 8月30日インドネシア人権評議会スタッフが30日マルク州ブル島ボタツ山周辺のシアン化物と水銀について警察が捜査すべき、と指摘。住民は飲料水だけでなく魚介類汚染も懸念。^[30]

有害物質による環境破壊について具体的な指摘初出。

2013年は、振り返れば金採掘が急速に拡大したと考えられる。環境破壊を心配する住民・NGO・学生などの反対にも拘わらず、軍や警察、地域支配層は金採掘者を搾取し利権をむさぼった。

2.3 2014年

(1) 3月22日コンパス記事、金山付近の2小学校で、児童数百人が授業受けられず。教員らが職場放棄し金採掘。^[31]

環境破壊が問題になる一方、金採掘利益は非常に魅力的だった。

(2) 4月24日金山地区で採掘者とウィディット村民が衝突、2人死亡。^[32]

(3) 11月6日マルク州議会がブル島ボタツ金山紛争で同県知事喚問要求。副議長によれば協同組合以外の採掘は禁止されていた。^[33]

金採掘権の管理も実際には難しかったことがわかる。

(4) 11月11日コンパス記事、州知事が軍警察責任者と会合。最近2週間のブル島ボタツ金山紛争(3人死亡)について。治安部隊の違法採掘護衛について遺憾の意。^[34]

州知事が硬式に軍・警察と採掘者との結託を非難。

(5) 11月20日ブル島知事採掘者に帰郷要求。^[35] ついに県知事が採掘禁止方針。しかし、採掘者らからの月10万ルピア徴収は、いつまで行われていたか確認できない。採掘者からすれば納得しがたいだろう。

2014年はようやく州知事県知事がそれおって金採掘禁止方針を明確化し、軍と警察に対しても明確に批判。ようやく事態は解決に向かい始めたと言えるかも知れない。

2.4 2015年

(1) 4月4日アンボンエキスプレス記事、地元地権者ら州知事・151連隊長と面会。連隊長は違法採掘者一掃を約束。^[36]

地元地権者というからには村落支配層とみて良さそうに思われる。だとすれば2013年2月以来採掘権料を取り立てていた勢力と考えてよい。彼らもついに採掘禁止に転換したと考えられる。

(2) 5月7日コンパス記事、ジョコ・ウィドド大統領がボタツ金山の全面閉鎖を命令。^[37]

(3) 6月30日州知事、ラマダン後にブル島ボタツ金山閉鎖を発表。紛争や環境破壊が深刻。過去3年繰り返し閉鎖命令してきたが、今回は大統領の直接命令。^[38]

(4) 7月27日マルク州議会議員スタルモ・ビン・ヤシン声明、ブル島ボタツ金山に投資したいならば、正式に州政府を通すべし。現状の採掘禁止は重要。^[39]

この期に及んでもまだ、金採掘の可能性が完全には否定されない。金の魅力は大きいということであろう。

(5) 9月3日アンタラ通信記事、州知事来週にブル島ボタツ金山閉鎖を宣言。民間鉱山会社による環境調査を行う。公式には過去四年間閉鎖は続いているが、実行できず。警備当局収賄も。^[40]

(6) 11月1日インドネシアNGO連合マルク州ブル島支部長談話、11/1ブル島カエリ湾岸で体長約2m鱒5頭死骸発見。その他動植物にも被害。ボタツ金山違法採掘由来シアン化物など汚染によると考えられる。^[41]

鱒の死因が食物由来の水銀中毒ないし青酸中毒であれば、人間も危険である。

(7) 11月18日コンパス記事、マルク州環境団体声明、治安当局と地方政府はただちにブル島ボタツ金山閉鎖を実行せよ。6ヶ月前の大統領命令実行されず。水銀鉱害で水俣病の危機。^[42]

大統領命令にも拘わらず、なかなか閉鎖が実現しない。この問題の難しさが伺われる。

(8) 11月13日地区軍指揮官ファイサル中佐談、ボタツ金山閉鎖に5日間の猶予。^[43]

(9) 11月27日ルフット・ビンサル法律・政治・安全問題調整相、マルク州アンボン市でのアンボン

社会大会議に際し、マルク州政府のブル島ボタッ金山違法採掘禁止支援を強調。同州アッサガティフ知事から既に閉鎖と聞いて喜んでいますが、シアン化物や水銀による水俣病などの公害を防ぐため完全根絶の必要を強調。多数の池沼が汚染し数千本のサゴが枯れるなどの被害が出ている。^[44]

2015年11月末時点で、ブル島ボタッ金山における違法採掘問題はようやく解決したかに見える。過去のいきさつから見て、もちろん事態は楽観できないが、地域住民と NGO や学生の運動が成果を挙げたと言える。

3. むすびにかえて

2015年11月時点でアンボン地域は比較的平穏を取り戻しつつある。この間セラムでの火災とブル島ボタッ金山問題、そしてあいかわらず繰り返す村落での小競り合いと、問題は山積みであったが2011年9.11暴動のような大事件は発生しなかった。

常識的には、今後は村落紛争の減少あるいは消滅が課題となるが、これについては誰もはっきりした見通しを持っていない状況である。引き続き観察を続け、解決のヒントを探りたい。

参考文献

- [1]土屋健治他『インドネシアの事典』同朋舎 1991年、265 ページ。など
- [2]“Menkopolhukam Dukung Tambang Gunung Botak Ditutup”, *seruu.com*, 27 NOVEMBER 2015.
- [3]“Sidang kasus 'perbudakan' di Benjina digelar”, *BBC INDONESIA*, 18 November 2015.
- [4]“Kebakaran Hutan, Kini Maluku Juga Kena Asap”, *viva.co.id*, 18 Oktober 2015.
- [5]河野佳春「2014年のアンボン情勢について—紛争・和解と地域伝統—」『弓削商船高等専門学校紀要』第37号2015年、93~99 ページ。
- [6]“Tambang Emas di Gunung Botak Longsor, 2 Orang Tewas” *detikNews*, 05 Jun 2012.
- [7]“Lima Tewas akibat Bentrok di Buru” *Kompas.com*, 12 Jul. 2012.
- [8] *Ambon Ekspres* 16 Jul. 2012.
- [9] *Ambon Ekspres* 29 Aug. 2012.
- [10] *Ambon Ekspres* 10 sept. 2012.
- [11] *Ambon Ekspres* 13 sept. 2012.
- [12] “Masuk ke Kabupaten Buru Harus Bayar Rp

100 Ribu” *Kompas.com* 17 Oct. 2012.

[13] *thejakartaglobe* 8 Nov. 2012.

[14] *Ambon Ekspres*, 19 Nov. 2012.

[15] *Ambon Ekspres* 30 Nov. 2012.

[16] *Ambon Ekspres* 1 Dec. 2012.

[17] a. Ponco, A., “Petambang Emas Dibunuh” *kompas.com* 4 Des. 2012.

b. Patty, R. R., “Warga Buru Tertembak Pistol Polisi” *kompas.com* 4 Des. 2012.

[18] Patty, R. R., “200 Personel TNI Dikerahkan Amankan Buru” *kompas.com* 5 Des. 2012.

[19] Ponco, A., “Rabu, Tambang Emas Buru Ditutup” *kompas.com* 4 Des. 2012.

[20] *Ambon Ekspres* 8 Dec. 2012.

[21] *Ambon Ekspres* 15 Jan. 2013.

[22] *Ambon Ekspres* 18 Jan. 2013.

[23] *Ambon Ekspres* 21 Feb. 2013.

[24] *Ambon Ekspres* 26 Feb. 2013.

[25] *Ambon Ekspres* 26 Feb. 2013.

[26] *Ambon Ekspres* 21 Mar. 2013.

[27] “Tolak Penambang Emas Ilegal, Mahasiswa di Maluku Bentrok” *liputan6dotcom* 22 Mar. 2013.

[28] *Ambon Ekspres* 20 Apr. 2013.

[29] *Ambon Ekspres* 25 Apr. 2013.

[30] “Polisi Harus Awasi Peredaran Sianida di Gunung Botak” *kompas.com* 30 Aug. 2013.

[31] “Guru Lebih Pilih Jadi Penambang Emas, Ratusan Siswa Putus Sekolah” *Kompas.com* 21 Mar. 2014.

[32] Leonard, D., “Dua orang tewas dalam bentrok di Buru” *ANTARA* 24 Apr. 2014.

[33] “Tiga Penambang Tewas, Bupati Buru Akan Dipanggil DPRD Maluku” *Kompas.com* 6 Nov. 2014.

[34] “Bentrok Gunung Botak, Gubernur Maluku Temui Pangdam dan Kapolda” *Kompas.com* 11 Nov 2014.

[35] “Gunung Botak Ditutup, Bupati Minta Warga Pendatang Segera Pulang” *Kompas.com* 20 Nov 2014.

[36] “Masalah besar di lumbung emas” *Ambon Ekspres* 4 Apr. 2015.

[37] “Gubernur Maluku Jamin Penambangan Emas Liar Gunung Botak Ditutup” *harian terbit* 8 Mai. 2015.

[38] “Tambang Emas Ilegal di Gunung Botak Ditutup Usai Lebaran” *harian terbit.com* 30 Jun.

2015.

[39] “Investasi di Tambang Gunung Botak Harus Lewat Pemerintah” *metrotvnews.com* 27 Jul. 2015.

[40] Ayal, J., “Gubernur Maluku tutup tambang emas ilegal Gunung Botak” *ANTARA* 3 Sep. 2015.

[41] “Kematian Buaya Pulau Buru Diduga Akibat Pencemaran” *Tribun_Maluku* 1 Nov. 2015.

[42] HERIN, F. P., “Pemda Diminta Segera Tutup Penambangan Emas Tradisional di Gunung Botak” *Kompas.com* 7 Nov 2015.

[43] “Penambang Diberi Waktu 5 Hari untuk Kosongkan Gunung Botak” *Kompas.com* 14 November 2015.

[44] “Menkopolkam Dukung Tambang Gunung Botak Ditutup” *Seruu.com* 27 NOV. 2015.